

電子書籍と紙の書籍

修明高等学校 1年 おまた 小俣 南々泉

みなさんはどのくらい本を読みますか。私は月に10冊以上の本を読んでいます。近年、色々な物が電子化され、インターネットで扱うことができるようになってきました。みなさんをご存知の通り、今では本も電子書籍となってインターネットで見ることができます。電子書籍と紙の書籍、この2つはどのような利点と問題点があるのでしょうか。どちらも書籍である、という共通点がありますが、この2つはかなりの違いがあります。このことについて、私の考えを述べたいと思います。

まず、紙の書籍の利点として、物として形に残すことができるという点が挙げられます。電子書籍では、購入していたとしても、万一何らかの理由でデータが破損してしまえば読めなくなってしまいます。ですから、書籍として確実に残すことができるのは紙の書籍の利点であると言えます。しかしその一方で、冊数が増えれば増えるほどかさばってしまい、収納する場所をとってしまう、という問題点があります。本棚が一杯になったからといって、すぐに新しい本棚を買えるものではないので、困ってしまうことも多いです。

次に、電子書籍についてです。電子書籍は冊数が増えても収納する場所を気にすることがない、という利点があります。またかさばることもないので、持ち運ぶときも端末さえあればいつでも読むことができます。つまり、紙の書籍の問題点を解決することができるのです。しかし、先程挙げたように、確実に残すことができないという問題点があります。なぜなら、電子書籍は購入しても「自分の物」にならない契約が多く、提供している企業の撤退などで読めなくなるケースもあるからです。その他にも、アプリに入れることで読むことができるタイプなどもありますが、もし端末が壊れてしまった場合は読めなくなってしまうでしょう。つまり、紙の書籍のように、売るなどの処分をしたりしない限りは読めなくなるということがない、という常識は、電子書籍には通じないのです。

こうしてみると、紙の書籍と電子書籍はそれぞれの利点と問題点を補い合っているように思えます。これは私の意見ですが、両方の利点を補い合うように利用できればもっと多彩な利用ができるのではないのでしょうか。例えば、電子書籍で読んで、手元に置きたいと思えば紙の書籍を買う。もしくは気になった本があるけれど、紙の書籍では値段が高すぎて手が出せないときがあります。しかし、電子書籍はポイントを利用して購入できます。アンケートに回答すると、お金を使うことなくポイントを貯めることができるため、紙の書籍を買うよりもはるかに安く購入出来たりもします。こう考えると、これも電子書籍の利点だと思います。インターネットが広まることで親しみやすくなった一方、それ以前では起こり得なかったであろうことが起こっているという事も言えるのです。

このような事は、現代のインターネット社会全体にも言えることだと思います。ゲームやSNSがよい例です。ゲームは昔、専用の機械やソフトがなければならず、値段も高価で気軽に買えるものではありませんでした。しかし今は、端末さえあれば誰でも気軽にできるため、課金のし過ぎやゲーム依存などの問題も生じています。また、昔は他の人と気軽に繋がれるものではありませんでしたが、SNSの普及により、今では簡単にできてしまいます。そのために、犯罪に巻き込まれたり、いじめへとつながる事例も多くなっています。

電子書籍と紙の書籍にはそれぞれ利点と問題点があります。それを比較してみると、それぞれが補い合っていることがわかります。どちらかが優れているなどとは決めず、それぞれをう

まく使い分けながら利用するのが一番良いのではないのでしょうか。インターネットの危険性も十分考えながら、私はこれからも2つをうまく使い分けて読書を楽しみたいと思います。